

**平成 28 年度**  
**札幌市男女共同参画に関する市民意識調査**  
**報 告 書**

**札 幌 市**

---

調査の概要	1
I. 調査の概要	3
1 調査目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 回収結果	3
II. 調査対象者の構成	4
III. 表の読み方	5
調査結果の概要	7
I. 男女平等に関する意識について	9
1 男女の地位の平等感	9
2 「男性は仕事、女性は家事や育児」という考え方に対する意識	14
3 政策・方針決定に女性の参画が少ない理由	16
II. 仕事について	18
1 女性が働くことについての考え方	18
2 女性が働く上で支障となること	21
3 男性の育児・介護休業について	24
III. 家庭生活・地域活動について	26
1 家庭内の役割	26
2 男性が家事・育児・介護に参加するために必要なこと	30
3 家族に介護が必要になった場合の考え方	32
4 男女の仕事と家庭生活・地域活動への望ましい関わり方	34
5 避難所における男女共同参画について	39
IV. 男女の人権について	41
1 マスメディアにおける表現方法	41
2 女性の人権が尊重されていないと感じること	44
3 配偶者やパートナー間での行為についての暴力としての認識	46
4 ドメスティック・バイオレンス（DV）の相談窓口の認知度	50
5 ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験など	52
6 ドメスティック・バイオレンス（DV）を経験した際の相談先	54
7 ドメスティック・バイオレンス（DV）防止に必要な取組	56
8 ドメスティック・バイオレンス（DV）被害者が相談をしやすくするための取組	58
9 性暴力被害相談窓口の認知度	60
10 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）の経験など	61
11 女性の生涯にわたる健康づくりへの支援策	63
V. 男女共同参画に関する施策について	65
1 男女共同参画関連事項の認知度	65
2 札幌市男女共同参画センターの利用の有無	70
3 札幌市男女共同参画センターの事業の認知度	72
4 男女共同参画社会を目指すための学校教育での力点	74

## 目 次

---

5 男女共同参画社会を目指すために重要なこと .....	76
設問・単純集計結果・集計表 .....	79

# 調査の概要



## I. 調査の概要

### 1 調査目的

この調査は、男女共同参画に関する市民の意識や実態、ニーズを把握し、今後札幌市が取り組むべき男女共同参画に係る施策の基礎資料とするために実施した。

### 2 調査の内容

- (1) 男女平等に関する意識
- (2) 就労状況
- (3) 家庭生活・地域活動
- (4) 男女の人権
- (5) 男女共同参画に関する施策

### 3 調査の設計

- (1) 調査地域 札幌市全域
- (2) 調査対象 20歳以上の男女
- (3) 標本数 4,000人
- (4) 調査方法 郵送による調査（配布・回収とも）
- (5) 調査期間 平成28年7月8日～7月22日
- (6) 抽出方法 等間隔無作為抽出法

### 4 回収結果

- (1) 回収数（率） 2,030（50.75%）
- (2) 有効回収数（率） 2,021（50.53%）
- (3) 回収不能数（率） 1,970（49.25%）

## II. 調査対象者の構成

区分		実数	比率
全体		2021	100.0
性別	女性	1176	58.2
	男性	783	38.7
	その他	0	0.0
	無回答	62	3.1
年齢	20歳代	158	7.8
	30歳代	259	12.8
	40歳代	314	15.5
	50歳代	334	16.5
	60歳代	457	22.6
	70歳以上	440	21.8
	無回答	59	2.9
職業	会社・団体などの役員	67	3.3
	正規の社員・職員	497	24.6
	派遣・契約社員	102	5.0
	パートタイマー・アルバイト	317	15.7
	自由業・自営業・家族従業	98	4.8
	家事専業	327	16.2
	学生	24	1.2
	無職	489	24.2
	その他	35	1.7
	無回答	65	3.2
未婚	未婚	390	19.3
	既婚	1261	62.4
	既婚（配偶者等と離別・死別）	303	15.0
	無回答	67	3.3
家族構成	ひとり暮らし	348	17.2
	夫婦（カップル）だけ	664	32.9
	同性カップル	4	0.2
	親と子ども（二世帯）	795	39.3
	祖父母と親と子（三世帯）	99	4.9
	その他	45	2.2
	無回答	66	3.3

### III. 表の読み方

1. Nとは、回答総数（あるいは分類別の回答者数）のことである。
2. 記号の意味は、次の通りである。
  - ・ F：回答者の基本属性（性別、年代、家族形態等）についての質問（Face Sheet）の略
  - ・ SA：1つの回答ができる質問（Single Answer の略）
  - ・ MA：2つ以上の回答ができる質問（Multiple Answers の略）。
  - ・ 3LA：回答を3つまでに制限した質問（3 Limitation Answers の略）
3. 前回調査（平成23年）で回答選択肢が設定されていないものについては、今回調査項目との比較ができない。その場合、前回比増減は数表では「-」で表記し、グラフでは数値表記をしていない。
4. 回答率（各回答の百分率）は、Nを基数として算出し、少数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0にならない場合（99.9あるいは100.1）がある。
5. 1人の対象者に2つ以上の複数回答（「2つまで」「3つまで」「いくつでも」など）を認めた質問の場合、比率の合計は、回答者数を基数としているので、100%を超えることがある。



